

平成24年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	東京農工大学	機関番号	12605
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 <small>(まつなが・ただし)</small> 松永 是 ・ 学長		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> <small>(こうきつ あきのり)</small> 氏名・職名 瀬瀬 明伯 ・ 理事(教育担当副学長)		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> <small>(ちば かずひろ)</small> 氏名・職名 千葉 一裕 (連合農学研究科・応用生命科学専攻・教授)		
4. 申請類型	H <複合領域型(環境)>		
5.	プログラム名称	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設	
	英語名称	Creation of the Practical Science Leading Graduate School for Green and Clean Food Production	
	副題		
6. 授与する博士學位分野・名称	実践科学専攻・博士(プラクティカルサイエンス、農学、または工学)		
7. 主要分科	(① 複合化学) (② 環境学) (③ 農芸化学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンライン型は太枠に主要な細目を記入		
	高分子化学、生物生産化学・生物有機化学、環境動態解析、		
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	農学府生物生産科学専攻、農学府応用生命化学専攻、農学府生物制御科学専攻、農学府物質循環環境科学専攻、連合農学研究科生物生産科学専攻、連合農学研究科応用生命科学専攻、連合農学研究科環境資源共生科学専攻、工学府生命工学専攻(博士前期・博士後期)、工学府応用化学専攻(博士前期・博士後期)、生物システム応用科学府生物システム応用科学専攻(博士前期・博士後期)、生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			
California Institute of Technology、三菱商事株式会社、三井化学株式会社、国際連合食糧農業機関、Duke大学、株式会社日立製作所、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、株式会社三菱総合研究所、University of Rome、株式会社東芝、上智大学、株式会社島津製作所、三菱樹脂株式会社、Aalto University、Cornell University、SRI International、University of California, Davis、Bonn University			

(機関名:東京農工大学 申請類型:複合領域型(環境) プログラム名称:グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 瀧野 明伯	タキノ アキリ	62	本部・理事 (教育担当副学長)	光電子材料工学博士	プログラム責任者
(プログラムコーディネーター) 千葉 一裕	チバ 一裕	53	連合農学研究科・応用生命科学専攻・教授	生物有機化学農学博士	プログラムコーディネーター、産学官連携教育主査
細見 正明	ホシミ マサキ	58	工学府・応用化学専攻・教授	環境化学工学・環境バイオ工学博士	副プログラムコーディネーター、環境分野主査、産学官連携教育担当
宮浦 千里	ミヤウラ チカト	56	生物システム応用科学府 共同先進健康科学専攻・教授	生命機能科学薬学博士	副プログラムコーディネーター、食料分野主査、国際連携教育主査
養王田 正文	ヨシキ マサフミ	52	工学府・生命工学専攻・教授	分子生物学・環境工学博士	副プログラムコーディネーター、エネルギー分野主査、教育プログラム主査
有江 力	アリエ ツトム	51	連合農学研究科・生物生産科学専攻・教授	植物病理学農学博士	食料分野、国際連携教育担当
萩原 勲	ハギハラ イサヲ	56	連合農学研究科・生物生産科学専攻・教授	園芸学博士 (農学)	食料分野教育・研究及び官公庁連携教育担当
木村 園子ドロテア	キムラ ソノコドロテア	35	連合農学研究科・生物生産科学専攻・准教授	土壌肥料学博士 (農学)	食料分野、国際連携教育担当
高橋 信弘	タカハシ ノブヒロ	59	連合農学研究科・応用生命化学専攻・教授	応用ゲノム科学理学博士	食料分野、産学官連携教育担当
蓮見 恵司	ハシミ ケイジ	54	連合農学研究科・応用生命化学専攻・教授	生理活性生化学農学博士	食料分野、国際連携教育担当
伊豆田 猛	イズタ タケン	51	連合農学研究科・環境資源共生科学専攻・教授	環境ストレス植物学農学博士	食料分野、国際連携教育担当
木庭 啓介	コバ ケイスケ	40	連合農学研究科・環境資源共生科学専攻・准教授	生態系物質循環解析博士 (農学)	食料分野、産学官連携教育担当
酒井 憲司	サカイ ケンシ	55	連合農学研究科・農業環境工学専攻・教授	生態情報学・農業工学農学博士	食料分野、国際連携教育担当
澁澤 栄	シブザワ サカエ	58	連合農学研究科・農業環境工学専攻・教授	農業環境工学農学博士	食料分野、産学官連携教育担当
下田 実	シモタ ミル	59	農学部・獣医学科・教授	獣医薬理学農学博士	食料分野、国際連携教育担当
佐藤 令一	サトウ リョウイチ	55	生物システム応用科学府・生物システム応用科学専攻・教授	昆虫病理学農学博士	食料分野、教育プログラム担当
田中 あかね	タナカ アカネ	51	生物システム応用科学府・共同先進健康科学専攻・教授	免疫学・腫瘍学獣医学博士	食料分野、教育プログラム担当
田中 剛	タナカ ツヨシ	39	生物システム応用科学府・共同先進健康科学専攻・准教授	生物工学博士 (工学)	エネルギー分野、産学官連携教育担当
豊田 剛己	トヨダ コウキ	46	生物システム応用科学府・生物システム応用科学専攻・教授	土壌学博士 (農学)	食料分野、産学官連携教育担当
大川 泰一郎	オホカワ タイイチロウ	47	連合農学研究科・生物生産科学専攻・准教授	作物の生産機能解析博士 (農学)	食料分野、国際連携教育担当
長澤 和夫	ナガサワ カズオ	46	工学府・生命工学専攻・教授	有機合成化学・天然物化学・創薬化学博士 (工学)	環境分野、教育プログラム担当
神谷 秀博	カミヤ ヒデヒロ	53	生物システム応用科学府・生物システム応用科学専攻・教授	化学工学・粉体工学工学博士	環境分野、産学官連携教育担当
直井 勝彦	ナオイ カツヒコ	54	工学府・応用化学専攻・教授	エネルギー化学・電気化学工学博士	エネルギー分野、産学官連携教育担当
渡辺 敏行	ワタナベ トシユキ	49	工学府・応用化学専攻・教授	有機フォトリソグラフィ工学博士 (工学)	エネルギー分野、国際連携教育担当
熊谷 義直	クマガイ ヨシナオ	43	工学府・応用化学専攻・教授	結晶成長・光電子材料工学博士 (工学)	エネルギー分野、産学官連携教育担当

(機関名:東京農工大学 申請類型:複合領域型(環境) プログラム名称:グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
秋澤 淳	アキザワ アツシ	50	工学府・機械システム工学専攻・教授	エネルギーシステム工学博士(工学)	エネルギー分野、教育プログラム担当
亀田 正治	カメダ マサル	45	工学府・機械システム工学専攻・教授	流体工学博士(工学)	環境分野、教育プログラム担当
中村 暢文	ナカムラ ノブフミ	48	工学府・生命工学専攻・准教授	生物電気化学博士(理学)	エネルギー分野、国際連携教育担当
三沢 和彦	ミザワ カズヒコ	47	工学府・物理システム工学専攻・教授	レーザー分光学・光物性物理学博士(理学)	エネルギー分野、教育プログラム担当
内藤 方夫	ナイトウ ミチオ	58	工学府・物理システム工学専攻・教授	超伝導物質科学・超伝導応用工学博士	環境分野、産学官連携教育担当
白樫 淳一	シラカシ ジュンイチ	44	工学府・電子情報工学専攻・准教授	ナノエレクトロニクス博士(工学)	エネルギー分野、国際連携教育担当
大野 弘幸	オノ ヒロユキ	58	工学府・生命工学専攻・教授	イオン液体工学博士	エネルギー分野、国際連携教育担当
Harry B. Gray	ハリー グレイ	76	California Institute of Technology, Beckman Institute, Professor	Bioinorganic chemistry Ph. D.	国際連携教育担当
栗原 康剛	クリハラ ヤスタカ	40	三菱商事株式会社・企画業務部渉外企画チーム	企画・調査商学士	産学官連携教育担当
工藤 昭英	クドウ ヒデアキ	60	三井化学株式会社・生産・技術本部・本部長付き	新製品開発・マーケティング・ビジネスと知財化学修士	産学官連携教育担当
松田 祐吾	マツダ ユウゴ	55	国際連合食糧農業機関・日本事務所、副所長	食料・農業全般農学士	産学官連携教育担当
松波 宏明	マツナミ ヒロアキ	43	Duke大学・医学部・Associate Professor	嗅覚・化学感覚 Ph. D.	国際連携教育担当
神原 秀紀	カンバラ ヒデアキ	67	株式会社日立製作所・フェロー	分析化学理学博士	産学官連携教育担当
中村 修二	ナカムラ シュウジ	57	カリフォルニア大学サンタバーバラ校材料物性工学部・Professor	窒化ガリウム系発光デバイス博士課程	国際連携教育担当
渡井 康之	ワツイ ヤスユキ	59	株式会社三菱総合研究所・常勤顧問	産業政策・市場戦略 国際政治学士	産学官連携教育担当
Bruno Scrosati	ブルノー スコラスティ	74	University of Rome, Department of Chemistry, Professor	Electrochemistry Dr	国際連携教育担当
鎌田 満	カマタ ミツル	42	株式会社東芝・技術企画室産学連携担当・参事	情報システム開発工学修士	産学官連携教育担当
鷺田 豊明	ワシダ トヨアキ	57	上智大学大学院地球環境学研究所・委員長・教授	環境経済学博士(経済学)	教育プログラム担当
吉田 佳一	ヨシダ ヨシカズ	60	株式会社島津製作所 取締役(技術研究担当)、基盤技術研究所長	先端分析・計測機器工学修士	産学官連携教育担当
吉江 建一	ヨシエ ケンイチ	56	三菱樹脂株式会社 AQSOA プロジェクトマネージャー	粉体工学工学博士	産学官連携教育担当
Esko I. Kauppinen	エスコ カウピネン	54	Aalto University, Department of Applied Physics, Professor	Nano Material Science and Engineering PhD	国際連携教育担当
Barbara Gillian Turgeon	バーバラ ジリアン タルジョン	65	Cornell University, Collage of Agriculture and Life Sciences (CALS), Dept. of Plant Pathology and Plant-Microbe Biology - Professor	Plant Pathology Ph. D.	国際連携教育担当
Stephen Ciesinski	ステファン シェンスキ	63	SRI International Vice President, Strategic Business Initiatives Instructing in Entrepreneurial Studies at Stanford's Business School	Entrepreneurial Studies MBA	国際連携教育担当
SHRINIVASA K. UPADHYAYA	シニバサ ウパディヤヤ	62	Dept. of Biological and Agricultural Engineering Dept., University of California, Davis	Agricultural Engineering Ph. D.	国際連携教育担当
Florian M. W. Grundler	フロリアン グルンドル	52	Bonn University, Agriculture, Plant Pathology, Professor and Chair, Head of Department	Molecular Nematology Ph. D.	国際連携教育担当

(機関名:東京農工大学 申請類型:複合領域型(環境) プログラム名称:グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

本構想は、「**食料生産の大部分を石油エネルギーに依存する世界的危機**」から脱却し、**非石油依存型食料生産の時代を創出する人材を養成**することを目的とする。

全世界の食料の大部分は石油エネルギーを利用することによって作り出され、現在少なくとも、50億人以上が生きるための食料生産は石油に依存している。これは、有限の地球上で高密度化社会が形成され、全人類約70億人のための食料生産は自然農法では到底賄えないことを明確に意味している。すなわち、人類が永続的に地球環境を持続しながら心身共に豊かな生活を送るためには、その生命の源である「食」に関する地球規模での究極的な課題に挑戦し、食の生産性やエネルギー依存形態を変革することが必須である。この第2の緑の革命を実現するためには、農学や工学の基盤技術を深い理解の上に、食料、環境、エネルギーの相互不可分の関係を理解し、人類生存の究極課題に熱意を持って挑戦するリーダーが必要である。このような課題認識に基づき、生命の源である「食」に関する地球規模での究極的な課題に挑戦し、食の生産性やエネルギー依存形態を変革する構想力と「実践力」を備えた国際的なリーダーを養成することを目的とした。この人材養成の目的を達成するために、「**プラクティカルサイエンス（実践科学）学位プログラム**」を導入し、以下の人材養成の目標を達成すべく体系的に教育を行う。

- ・ **高度な実践型研究人材として、食料、環境、エネルギーの相互不可分の関係を理解し、人類生存の究極課題に熱意を持って挑戦できる**
- ・ **複合領域に跨がる広い専門分野の人材を統率してチームを作り、コミュニケーション力をもって国際社会で活躍できる**
- ・ **目標実現に向かって自らの洞察力で見出した課題について、強い意志で挑戦・実行・完遂できる**

プラクティカルサイエンス（実践科学）学位プログラムを推進する大学院教育課程では、世界の第一線の大学等との連携によって、「**グリーン・クリーン食料生産オープンイノベーション**」を展開する。支援期間終了後はその実績に基づき、独自予算および外部資金獲得枠を応分に拡大してプログラムを発展的に継続する。**本学位プログラムは、食料生産とその関連分野に関する重要課題解決に向かう優れた人材養成のために、本学の世界レベルでの研究・教育実績と、国際連携ならびに産学官連携を基軸として、実社会で活躍できる人材養成のための最高レベルの人材養成拠点とするものである。**

当該大学院入学後の学生は、研究室ローテーションにより3名の教員から研究指導を受ける。また、人間力強化に向けて、人文社会系や語学表現に力点を置いた基盤科目を設定する。さらに、社会交流科目によって、企業に出向く実践型インターンシップや海外留学（長期海外派遣）を経験するシステムとし、実践力を具備したリーダー養成を可能とする。学生の主体性を確保するために、学生に自分の裁量で使える研究費を与え、自らの意思と判断で学会への参加や調査を行うことを可能にする等の仕組みも導入する。本学位プログラムにより学位授与者数は、年当たり、20名を目標としている。

本プログラムは全学的な大学院教育改革構想に基づき、全学的な融合領域としての大学院新専攻（実践科学専攻）を、生物システム応用科学府（BASE）を責任部局として設置し、新専攻の設置に伴う教育研究スペース、施設等を大学の責任の下で完備させる。また、海外機関との連携教育、海外大学からの学生の招聘、支援スタッフの雇用等について、大学独自予算により実施する。

当該専攻の教育は、国内外から第一線の教員を招聘すると共に、全学から厳正な審査によって選出された、教育理念を共有する意欲的な教員が参加し、全学の大学院研究科に当該リーダー養成プログラムを波及させる。**教員に対しては資格再審査制度**を設け、所定の業績評価期間ごとに審査を受け、基準を満たさない場合は当該専攻担当資格を停止するものとする。新任教員はテニュアトラック方式により支援期間内に雇用すると共に、**支援期間終了後は一定の基準を満たした教員はテニュアとして、当該大学院教育研究を担当**する。これによって、明確な目標設定と競争的な環境の中で、教員、学生それぞれが切磋琢磨する体制を構築する。

本プログラムでは、学位審査は5名以上の教員ならびに外部評価委員によって実施し、客観的な視点から**教育研究目標の達成度を厳格に評価できる体制**とする。所定のコースワークの科目群を履修すると共に博士論文の作成を行う。特に、実践を伴う科目ならびに博士論文の作成に至るプロセスの評価においては、①独創性、②発展性、③実践性を重視した総合評価を行ない、最終審査とする。

学位プログラムの概念図

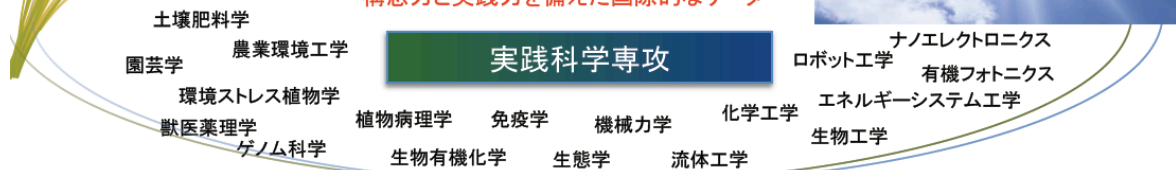
(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設

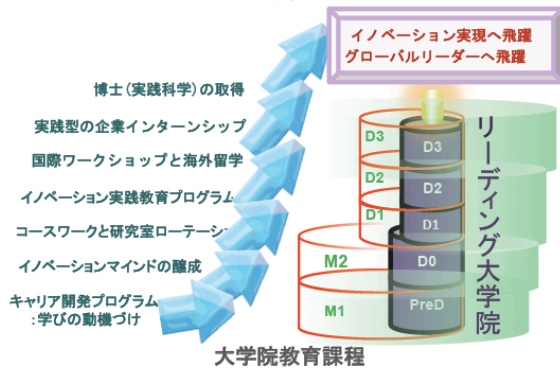
「地球規模の持続的食料生産」に挑戦し、
社会と環境との調和の中で豊かな社会形成を実現する

リーダーの人材像

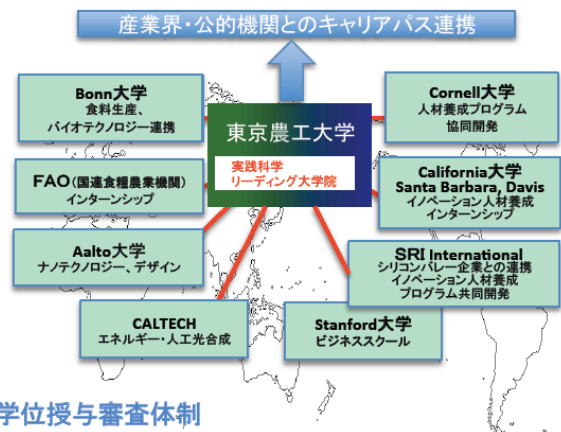
生命の源である「食」に関する地球規模での究極的な課題に挑戦し、
食の生産性やエネルギー依存形態を変革する
構想力と実践力を備えた国際的なリーダー



イノベーションリーダー養成プログラム



食料生産に関わる国際大連携と産学官連携

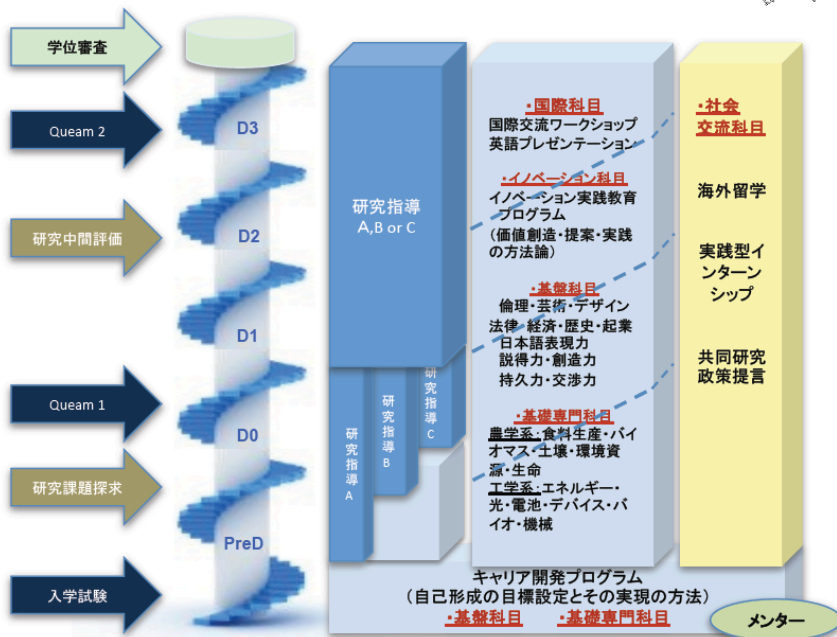


厳格な教員資格審査を実施

全学統一基準で学位資格を認定

- 審査資格を保有する5名以上の審査員による厳密な学位審査と質的保証
- 学位審査に先立ち厳密な資格検定試験Queamを実施
- 研究課題決定後は、質的に高い研究に専念。奨学金等には優秀者への優遇措置
- 厳格なレダーチャート成績評価法および、資格検定試験Queamを実施
- 基礎科目、基礎専門科目により、従前の大学院教育の範囲を超えた、幅広い教育体系を実現
- 入学後6か月に研究室ローテーション開始。研究課題を探索。
- 入学後の6か月間は、学生全員が“キャリア開発プログラム”を履修

教育プログラムと学位授与審査体制



機 関 名	東京農工大学
プログラム名称	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設
<p>[採択理由]</p> <p>東京農工大学の特長を活かした農学と工学の融合によって、グリーン・クリーン食料生産という時宜を得たターゲットの設定の下、新時代における実践的なリーダーを育成するための明確な目標を有した、優れたプログラムである。</p> <p>また、本プログラムは教職員の意識改革を強く意識した運営を計画している点も評価できる。本プログラムによって、優れたリーダーを育成するだけでなく、教員のレベルアップを同時に実現しようとする試みは重要である。さらにプログラムに参加する学生の指導教員を複数化することによって、これまでにない異分野での融合が教育と研究の両面において実現することが期待できる。</p> <p>本プログラムを実現させるためのグローバル教育連携ネットワークが、すでに海外研究機関や国内企業を含めて整っており、それを保証するための全学的な取り組み体制が整備されている点は高く評価できる。本プログラムの実現性をより高めるために、グリーン・クリーン食料生産に必要な環境科学面と社会科学面での教育をさらに充実、強化することを強く期待したい。</p>	